

さん さ

三叉神経痛と顔面けいれん

東京警察病院脳神経外科部長に赴任してから早くも5年が経過しました。今回は私の専門分野の一つでもある三叉神経痛、顔面けいれんについてご説明いたします。

脳神経外科 部長
脳卒中センター
副センター長
よしの まさのり
吉野 正紀



さん さ 三叉神経痛について

三叉神経痛とは、顔の知覚を司る三叉神経の支配領域(即ち顔面)に激しい痛みが出現する病気です。普段は痛みを感じませんが、洗顔、ひげそり、歯磨き、化粧、物を食べる動作、風にあたった時など、顔面を触れたり動かしたりした際に痛みが起こります。瞬間的な痛みですが、刺されるような非常に強い痛みのため「電撃痛」とも言われます。虫歯による痛みと間違えられて歯の治療をされることもあります。

脳血管が三叉神経を押すことが原因ですが、稀に腫瘍が押していることもあるためMRI検査が必要です。内服薬がよく効きますが、痛みの

コントロールが悪い場合は、神経ブロック(麻酔薬などで神経を麻痺させる)や手術(神経を圧迫している血管をずらす、根治的治療)が必要になることもあります。

さん さ 三叉神経痛



顔面けいれんについて

顔面けいれんとは、目や口の周囲の筋肉がけいれん(自分の意思とは関係なくピクピクと勝手に動く)する病気です。多くは眼周囲のピクつきに始まり、徐々に顔全体に広がります。

原因は、三叉神経痛と同様で、脳血管が顔面神経を押すことです。徐々に頻度や持続時間が増加し、一日中けいれんを生じることで精神的ストレスになります。また運転などの両目をしっかり使う作業の際に不自由を感じることもあります。

三叉神経痛と異なり内服薬の効果は乏しく、症状のコントロールには、ボツリヌス毒素療法

(筋肉を麻痺させてけいれんを止めるが、効果が切れれば再度けいれんをきたす)や手術(神経を圧迫している血管をずらす、根治的治療)が必要になることがあります。

顔面けいれん



当科では患者さんにとって最適な医療を提供できるよう日々努力をしております。今回解説したような、顔面の痛み、ピクつきが出現した場合には是非ご相談にいらしてください。

その他にも脳神経外科疾患に関してご心配なことがございましたら、いつでもご相談ください。